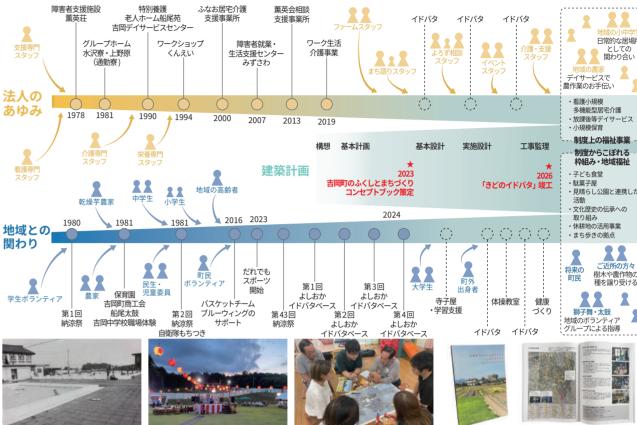


。一人ひとりと共に半世紀を歩んできた福祉事業と未来へのバトン

私たちは47年前、"地域に障がいのある人達の居場 者や障がいのある人、地域住民や子どもたちなど、 所を"という想いから障害者支援施設を開設し、一 あらゆる人が櫓を囲む様子は、ケアの相互作用「共生」 人ひとりの想いや暮らしの変化、地域ニーズに応えの風景を創出しています。

ながら障がい福祉、高齢者福祉の事業を展開し、縦 2023 年、この先も地域と共に生きる風景づくりを目 割りの制度を横断した「制度の枠にとらわれない福 指し、建築家と共に地域を考える「よしおかイドバ タベース」の運営を開始しました。ここで仲間たち その歴史のなかで、私たちが大切にしてきたのは、 と共に志を育てながら、これまでの福祉実践と地続 地域との繋がりです。現在の法人拠点が住宅街から きになる拠点プロジェクト「きどのイドバタ」を立 離れた場所でありながら多様な取り組みを継続して ち上げ、10 年、20 年後の地域の豊かな暮らしや風景 おり、なかでも 40 年以上続く夏の納涼祭では 400 名 づくりへ向けた実践に挑戦していきます。



2. 地域の特徴と敷地選定:みはらし公園と繋がり暮らしの原風景を継承する

吉岡町は群馬県で最も人口増加が大きく、榛名山の裾野田 側「吉岡町南下木戸地区」の一角を選定しました。農の風 畑・牧地の広がる自然豊かな町です。移住者が多く開発が、景とともに古くからの民家があり、町民の憩いの場である 進む町の東側「大久保地区」に比して、西側は文化や歴史 「城山みはらし公園」や貯水池などの風景に連続する土地 の面影がありながらも少子高齢化が進み、独居高齢者の住です。この土地に、地域の原風景を継承しながら、公園で まいが増え、コミュニティの希薄化が顕在化しています。 遊ぶ子供たちや農の営みと連続する新たな拠点「きどのイ 新たな拠点を考えるにあたり複数の候補地を挙げて検討 ドバタ」を計画します。



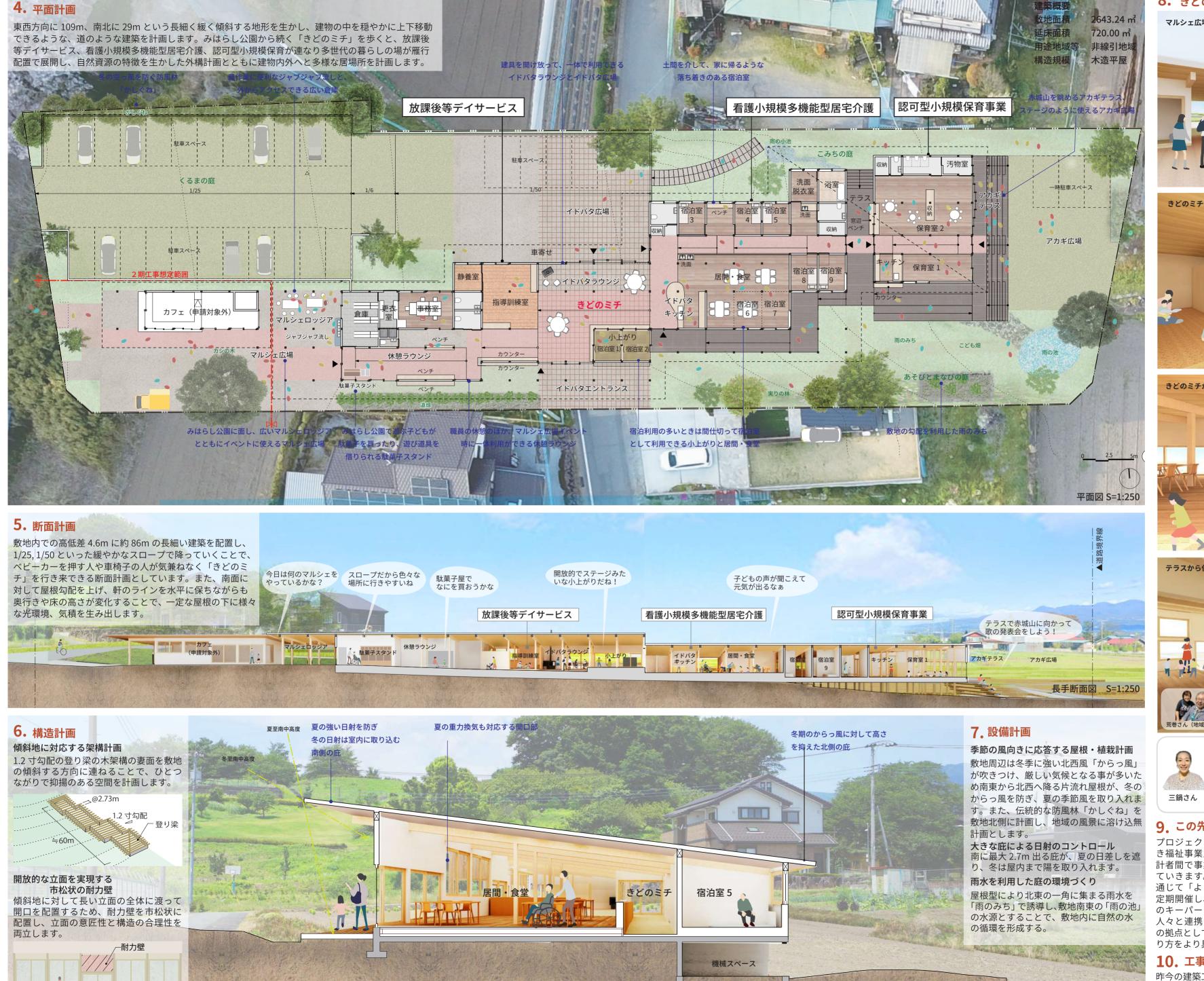
3. まちに開く「薫英会のケア」と「7つのコンセプト」

2023年に立ち上げた「よしおかイドバタベース」の運 度を超えた多様な場所を創出するよう「きどのミチ」が 営と並行して、地域の人々へのヒアリングや地域への理 場所と場所を繋ぎ、風景へと連続していきます。ここで 解を深め、拠点『きどのイドバタ』の基本計画を策定し、 は、地域の自然資源と農の風景やそれを体験する食の 冊子を作成しました。法人でケア事業を支えるスタッフ拠点、伝統文化を伝え育む活動、町で育てる子どもの とともに地域の子供から高齢者によって挙げられた約 居場所や、健康づくりの活動など、あらゆる世代・時間・ 600 の意見を集約し、「薫英会のケア」を核とする「7 背景を紡ぐ思考が、建築や庭づくりによって実現されて つのコンセプト」を抽出しました。

ケアの事業を基盤としながらも、そこに留まらずに制

いきます。





-耐力壁

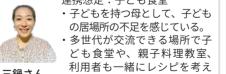
8. きどのイドバタで活動するプレイヤー











短手断面パース



もある。 ども食堂や、親子料理教室、 初田書も一緒にしいピを考え **佐俣さん** る緩いコミュニティ拠点があるといい。

・既存の地域コミュニティは重

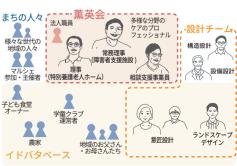
要と理解しつつ、若い世代に

は負担が大きいと感じること

9. この先を共に考えるチームづくり

る活動をしたい。

プロジェクトの推進にあたり、引き続 通じて「よしおかイドバタベース」を参加・主催者(特別養護を人ホーム) 相談支援事業員 定期開催し、これまでに出会った地域 👔 のキーパーソンをはじめとする多様な 発力 人々と連携を深め、ケアとまちづくり の拠点としての『きどのイドバタ』のあ



10、工事費高騰を見据えた建設コストの計画

昨今の建築工事費高騰を鑑み丁寧なコ 関東甲信、148.8万円/坪)を参照し、 スト計画が重要と考えます。そこで、 直近の建設費上昇率から着工予定の令 独立行政法人福祉医療機構が公開して 和7年までの建設費の上昇率(1.26 倍) いる福祉施設の建設費状況(令和5年、を予測し、建設費を算出しています。